京城日報　夕刊
編輯兼發行人 印刷人 小川三之介 吉見島吉
京城府太平通一丁目 發行所 合資會社 京城日報社
十一月二十九日（日）

初冬漢江の朝霧

【上】静かに物想はする初冬の漢江である、その昔（高麗朝粛宗のとき）京城が南京として離宮が設けられたとき以来、粛王はしばしばこの南京に御巡幸あり殊のほかお気に召したのがこの漢江であつた、いまの元町附近は入江になつてゐて蓮の花が咲きみだれ江上に舟を浮べ賑やかな宴に歓をつくした殿上人は流連して帰るを忘れたともあらう、李朝太祖三年遷都以来漕運の便開けて軍艦も浮べば大漁に賑はふ百首魚船も入り、都人は華麗な龍頭の屋形船に妓生の長鼓に夢幻を描いたが、いまは彼氏、彼女のためにジョー・ボートあり冬ともなれば堅氷に閉ざされスケート場ともなるなど尽きぬ思出を秘めた漢江である、朝霧かゝる初冬の江上をゆくは片帆真帆、どんな夢を乗せてゐるやら――【下左】伸びる京城――南山周廻道路は七十五萬圓を投じ本年九月から着工、幅員二十五米、延長四千四百米で十三年三月末日竣成を見るが沿道一帯は風光佳絶住宅地として発展が約束されてゐる、開ふツルハシは薬水峠の開鑿難工事の場所【下右】朝霧のやうな初冬の黄昏を家づとの新商人が車上に結ぶは郷愁の夢か、蹄鉄の響きは主人の居睡を誘ふ断切な諧調曲だ【漢江里附近で】

[illegible]

（一二六）

邦枝完二 作
神保朋世 畫

殿中（七）

『どうぞ旦那様、もう御殿奉公遊ばして。……』

今ははや殿に一筋の望を籠めたお萬は、たゞ〳〵助けを乞ふより途がなかつたのであらう。粂村の手へ縋り附いたまゝ身を慄はせた。

『これ萬。』

『は、はい。』

『そなた、何んといふ気の小さいことなのぢや。わらはは、そなたの悪いやうにはせぬと、これ程はつきりいつてゐるではないか。そなたを出世させてやりたい計りに斯様なことを申いてゐるのぢや。』

――身に着けた衣装をみんな取りや。』

『と仰しやつても。……』

『えゝもう聞き分けのない。……』

粂村は再びお萬を引き摺り倒すやうに、身近に引き寄せた。お萬はよろめきながら下着の紐までも腰から滑り落ちさうに足許に這つた。

『あッ、旦那様。』

殆どその叫びと同時だつた。襖が音もなく開いて、ぐッと睨みながら現れたのはおころだつた。

『旦那様。』

『おころか。』

『はい。』

『なぜ黙つて襖を開けやつた。』

『旦那様に申上げたいことがあつてでございます。』

『どのやうなことぢや。』

『お萬を無体に遊ばすのを、お止め下さいまし。』

『何んと云やる。』

『そのやうなことを遊ばしましては、旦那様の御身分に拘りませう。』

『えゝ、余計なことを云やるな。主人のわらはがすることに、召使のそなたが口を挟むとは失礼であらう。』

『旦那様、ころは失礼を承知の上のことでございます。』

『なに、失礼を承知の上とな。』

『はい、わたくしはたとへそのやうなお叱りを受けましても、おいさめしずには居られませぬ。――もし旦那様、あなた様はお萬の願をお聞き遊ばして、延命院様の御機嫌を。……』

『えゝ、黙りや〳〵。何んでそのやうなことがあらうぞ。当振舞も程にしや。』

『はい、当振舞ではございませぬ。わたくしは、確とした証拠があつて申上げてゐるのでございます。』

『確とした証拠ぢやと。』

『はい。旦那様は只今何んと仰しました。お萬に出世させてやりたい計りと仰しやつたではございませぬか。それはかりではございませぬ。日道様には、男の肌を知らぬ娘のいきにえが、何よりのお供物といふことは、いつぞやもわたくしより申上げましたこと。お萬をお供物に差上げて、あなた様への御心を、何時までも繋いでおきたいとのお心には、このころには解り過ぎるくらゐ解つて居ります。』

『下りや。』

『えッ。』

『下りやと申すのぢや。日頃目を掛けて下さる主人の御恩もわきまへずに、差がましき物の言ひやう。もはやそちの言葉など聞く耳もたぬ。用はない。このまゝ直ぐに下りや。』

『そんなら旦那様。わたくしにはもはや御用はないのでございますか。』

『ない。』

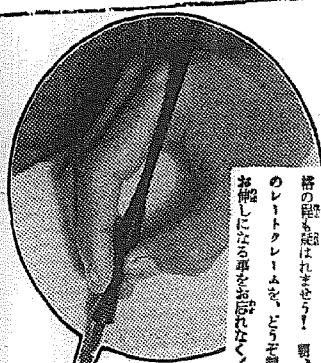
『左様ならば、直ぐにお暇いたしますが、その代り、ころには話がございます。』

つんと天井を睨めながら出で行からとする後を見送つてゐた粂村は、一二間行き過ぎるおころを、縋るやうな声で呼び止めた。

『待ちや。』

『えッ。』

『待ちやといふのぢや。』

大懸賞？五百萬名樣
總當り
若肌のまもり
レートクレーム
唸る人氣！
絶讃の嵐！
懸賞課題
肌アレ・日ヤケを防ぎ四季を通じ、若肌をまもる〇〇〇クレームの名を御存じですか？
答案用紙と書方
一　レートクレームの空函をそのまゝ開いて、裏の白地へ左の順序に記入し御近所のレート化粧料參加販賣店にお届け願ひます。（どなた樣もどしどし御應募下さい。御一人樣何枚でも構ひません）
一　〇〇〇クレーム（〇〇〇の中へ字を入て下さい）
二　壹等賞品中お望みの品一點（イ、ロ、ハで御指定下さい）
三　御住所御姓名（年齡）
四　レートクレームをお買上げの店名と所
五　貴方は荒れ性ですか、脂性ですか
六　御愛讀の新聞、雜誌名一つあげて下さい。
御近所のレート化粧料參加販賣店では御愛用の皆樣の御便宜を計り、御答案を一まとめにして、本舖へ御送り下さいますから、郵税がかゝりません。（若し本舖へ直接御郵送の節は、四匁毎に三錢切手を貼布願ひます）
〆切　昭和十二年二月末日
發表　同年三月末日新聞紙上
◎壹等賞（貳千名樣）
（イ）新型腕時計　壹個
（ロ）新柄御召銘仙　壹反
（ハ）銘仙座布團　壹組
（ニ）寶石入金指輪　壹個
（ホ）輕便卓上ミシン　壹臺
（ヘ）羽二重掛布團　壹枚
（ト）茶箪笥　壹棹
（チ）流行型婦人絹洋傘　壹本
（リ）ボストンバッグ　壹個
（ヌ）羽二重片側帶　壹本
（ル）總桐用箪笥　壹棹
（ヲ）家庭用ハカリ　壹臺
（ワ）總桐文机　壹個
（カ）最新型置時計　壹個
（ヨ）婦人雜誌無料購讀券（壹ケ年分）
（タ）晴雨兼用絹洋傘　壹本
（レ）極上安全剃刀　壹個
（ソ）豪華お化粧セット　壹組
（ツ）特製鏡台　壹臺
（ネ）オートマッサージ　壹個
◎貳等賞（參千名樣）
レート化粧料美麗詰合函　壹個
◎參等賞（拾萬名樣）
携帶用レート白粉　壹個
◎愛用賞（五〇〇萬名樣全部）
美麗世界十美人お化粧カード　壹枚
（御愛用賞は御買上の際、洩れなく進呈）
東京市日本橋區馬喰町一
平尾賛平商店懸賞係
手！
荒れ知らぬ柔肌をお望みならば！
お子さん……
ポッチャリした可愛いお手々に皸走つたヒビ、アカギレ！　それでは餘りに痛々しいではありませんか！　子供は風の子、どこの御子さんも遊び呆けては、冷たい風に吹き晒されますから　レートクレームをつけて絶へず劬つてやつて下さい！
お母さん……
これから冷たい朝夕の水仕事は大變ですネ御用心します。油斷するとスグお肌はカサカサに荒れ、ヒビ、アカギレの因になります。水仕事の後はスグ水分をキレイに拭いてからレートクレームを萬遍なく伸して下さい。艶々した若肌を護る秘訣！
お父さん……
一家の柱石、社會の第一線に奮鬪して健康潑剌たるべき手が、荒れて居たり、ホクロだらけだつたりしては男性美も台なし、人格の程も疑はれませう！　朝、ヒゲ剃り後のレートクレームを、どうぞ御手のお方へもお伸しになる事をお忘れなく！
經濟に二道なし！
石鹼は皮膚健康のためにのみ選ばれるべきです
而も一日として缺かされぬ必需品です
花王石鹼が心ある主婦方から　決定的御愛用を戴いてゐるのは
お肌のためにこの上なき無類の純粹さと――無駄減りせず永もちする――この二大特長の故です
眞によい品・廉い品・二つ兼ね具へたものをお求めになつてこそ　始めて正しい經濟と言へませう
花王石鹼
純粹度九九・四％
正價一個十錢
東京　花王石鹼株式會社長瀨商會・大阪

春を待つ歌 (85)

瀧滋彌作
高橋辰朗畫

縁談 (三)

梯子段を上つて、襖を勢ひよく開けると、外の硝子障子越しに、部屋の疊を半分を射してゐた小春の日光が、まだ起きて顔も洗はない弘の眼に眩しく輝いてゐた。

「英ちやん――もう逃げてゐなくつても大丈夫だ。強敵退散、お客様はお歸りだ」

兄の机に倚つて、一心に讀書してゐたらしい英子は、日射しで上氣して赤くなつた顔を兄に向けて

「ひどいわ、逃げて來たなんて、それに強敵退散なんて、木田さんの奥さんに悪いわ」

「強敵退散は悪いかも知れないが逃げたのは事實だぜ。お前が自分の縁談になつたものだから、二階へ隠れたのは明確な事實だ。その代りに僕が隣りの部屋で、すつかり聞いて居いたよ。しかし木田令夫人仲々雄辯だね。長講實に二時間、僕は挨拶するのが面倒だから、茶の間に坐つたなりに新聞を讀んで案内廣告まで見てしまつた。あんな人は少しトラピストの修道院へ入れた方がいゝぜ」

「ホヽヽ、兄さんの口の悪いつたらないわ、あの方はとても社交がお上手よ。兄さんみたいに普段無駄口を叩いてゐて、いざとなると口がきけないのよりも、よつぽど上等よ」

「いやに木田さんの肩を持つて、兄貴をけなすな。もつとも良縁だからな。兄さん見たいに高等學校の入學試験に失敗つて、また大學へ入る時に一年遊んだのと違つて府立中學以來の秀才だといふ候補者を持ち込んで來たのだから……」

「あら知らないわ、そんな話。たゞ兄さんが口が悪過ぎるのよ」

「うちのお母さんも御世辭がいゝね。僕に小遣を呉れる時とは全く違ふよ。これもトラピスト組かな。トラピストとトラピストが寄り合つたお蔭で、朝飯が二時間も遅れてしまつた。あゝ腹が減つた」

「まあ」

机の上に突ひ臥れた英子は、まだ笑ひきれない口許を見せて、

「直ぐ下へ行つて仕度するわ、少し待つてね、えゝと……」

と本を繰つて、

「あと三頁だけ讀ましてね。いくら日曜でも、あんまりお寝坊過ぎるわ、だからトラピストの受難も我慢することよ」

「莫迦に熱心だね、時節柄なんか讀んでゐると、不穏文書取締法で處罰されるぜ、どれ鳥渡お見せ」

弘は英子の見てゐた七八十頁の本を取り上げて繰り拡げながら

「家庭染色讀本、解つた。木田令夫人の云ふ所はこれだな」

「それは何の話?」

「いや、木田令夫人だけでなくて今日の話の先方のお母様も、英ちやんの事をよく知つてゐて、讃めるのさ。……家庭で染色までなすつて、虚榮心が無くつて、身嗜みがよくつて、時世のお嬢様には珍らしいお心掛けの方だから、さう云ふ方を是非……なんて云つてゐたぜ」

「あら知らないわ、たゞ面白いからしてゐるのよ。それに一枚二枚として見ると随分經濟よ。兄さんだつて卒業まで、まだ一年半もあるでせう。私がお洒落したがつては家に濟まないわ」

「大時な心掛けだね、これは冗談ぢやない、感謝する。木田さんやお母さんの家で感心するのも無理は無い。今着てゐるのも自分で染めたのだらう。色合もいゝし、柄も品がいゝよ。然しよくこんな素人離れした物が出來るね。平生無器用だと云つてゐるのは、實は御謙遜なんだね」

「お兄さんはよして頂戴、私まだ何にも知らないのだから……けれども無器用な事は本當よ。お友達は誰でも、何なさつても私よりも手際がいゝわ、たゞ家庭染色はみやこ染の際に、素人向きに完全に研究された染料を使へば、柄や色の見立て一つで、そんなに上手も下手も無いことよ。つまり設備が要らない、技術も要らない、時間がかゝらない。費用が少くつて、さうして日光や洗濯に褪げない染色が出來る事が家庭染料の條件よ。みやこ染はそれを具へてゐるから色揚げや目引きや、普通の染替へなんか訳無く出來るわ。絞り染でも、工夫さへすれば、とても面白い物になるわ。此の前は手綱絞りつて云ふの」

「でも……其の着物は型を置いた模様だらう」

「えゝ、帯はみやこ染だけを使つた絞り染だけれども、着物の方は友禅染よ。近頃ミヤコ友禅染料と云ふ家庭向きの進歩した友禅染料が出來て、此の方が絞り染よりもずつと簡単だわ、兄さんの袖掛けは随分汚くなつてゐるわね。今度染めて上げますわ」

「是非お願ひするよ。ところで空腹なんだ」

「あら、さうでしたわね。すつかり忘れて御免なさい。今下へ行つて仕度しますから」

「英ちやん――今日は大分褒めたから御馳走するんだぜ。おみおつけと漬物だけではいけないぜ」

英子の笑ひ聲が、梯子段を下りる音と共に消え去ると、椽に出した鳥籠で、文鳥が鳴き出した。

朝鮮郵船定期出帆

△印ハ船客御斷リ

◎北鮮新潟直航
長白山丸(東北三、五三八噸)(定員特等四名、並等二二名)
雄基三日 羅津三日 清津三日 新潟六日 新潟元日 元山三日 興南四日 城津五日 清津六日 羅津六日 雄基七日

北鮮横濱直行 東京—阪神—關門コース
羅津丸 日 雄基 日 清津 日
北鮮東京行 釜山—關門—神戸—名古屋—清水—横濱寄港
新京丸 雄基六日 清津元日 元山二日
○不定期行船 關門—名古屋—清水—横濱寄港

雄基丸 日 清津 日 元山 日
西鮮東京行 名古屋—清水横濱寄
△咸鏡丸 仁川三日 群山四日 木浦 日
△壬基丸 新義州 日 鎭南浦三日 仁川三日
北鮮大阪行 釜山—關門—鹿島—神戸寄港
○陸軍運輸御用船 立神丸 雄基四日 清津五日 元山七日
北鮮大阪行 釜山—博多—關門—神戸寄港
金剛山丸 雄基五日 清津一日 元山四日
鎭遠丸 日 清津 日 元山 日
西鮮大阪行

晉江丸 仁川五日 群山六日 木浦十日
仁川丸 日 群山 日 木浦 日
○北部線 神戸寄港
△薩摩丸 新義州三日 鎭南浦三日 仁川五日
新義州丸 日 鎭南浦 日 仁川 日
敦賀行 新舞鶴—舞鶴—宮津—境延長
釜山丸 雄基五日 清津五日 元山七日
鹿兒島行 釜山—博多—長崎—三角寄港
櫻島丸 仁川三日 群山三日 木浦三日
○博多直行船 長崎寄港
西鮮満津行 丸 大連 日 仁川 日

平安丸 仁川 日 鎭南浦 日 釜山 日
北鮮上海、青島行
平安丸 清津 日 釜山 日
上海行 青島延長—群山寄港
平安丸 仁川五日 鎭南浦五日 釜山四日
青島行 安東—芝罘—大連—營口寄港
會寧丸 仁川五日 鎭南浦五日
大連行
櫻島丸 仁川六日 鎭南浦七日
丸 仁川 日 鎭南浦 日
浦鹽行
金剛山丸 元山三日 清津三五日 雄基六日
△乘船賃金低廉船中食事附
△右ノ外臨時臨時船ヲ配船致シ船腹ノ調節ヲ取計ヒ居リマス
日本郵船定期出帆
横濱行 箱崎丸 門司 神戸 横濱 十一月廿六日 十一月廿八日
歐洲行 秋父丸 神戸 横濱 十一月三十日 十二月二日
濠洲行 熱田丸 横濱 神戸 長崎 十二月四日 十二月十八日 十二月廿一日

朝鮮郵船株式會社
京城府南大門通リ五ノ一
代表電話本局(2)四一九五番
釜山支店 大橋通 代表電話長一二四番
元山支店 海岸町 代表電話長一二四番
仁川出張所 港町 電話長三五一番
北鮮出張所 清津府北星町 電話長一八番
京城代理店 朝鮮運送會社

嶋谷汽船定期出帆

朝鮮總督府命令航路
朝鮮北海道大連航路
×印ハ樺太行
大連直行(三等七圓)
仁川出帆代理店 日鮮海運株式會社 電話九〇番
日本海丸 十二月一日

電話本局(2)五一一一番
安東縣代理店 國際運輸支店
鎭南浦代理店 朝鮮商工會社
仁川代理店 朝鮮運送支店
群山代理店 群山海運會社
木浦代理店 朝鮮運送支店
釜山代理店 大池回漕部
元山代理店 朝鮮運送支店
城津代理店 朝鮮運送支店
清津代理店
雄基代理店 國際運輸支店

明石丸 十二月七日
朝海丸 十一月十七日
天海丸 十一月廿四日
×印ハ樺太行(名寄急行)
裏日本、北海道、樺太行
設備施設完備ス
朝府殖産所前記各代理店並各地
ジャパンツーリストビューロー
鎭南浦出帆代理店 朝鮮海運出張所 電話五三九番
日本海丸 十二月五日
明石丸 十一月十二日
朝海丸 十一月廿二日
×天海丸 十一月廿六日
仁川出帆代理店 日鮮海運株式會社 電話五〇番
日本海丸 十二月七日
明石丸 十一月十四日
朝海丸 十一月廿四日
天海丸 十一月廿八日

群山出帆 代理店 群山海運會社 電話一四番
日本海丸 十二月八日
明石丸 十一月十五日
朝海丸 十一月廿五日
天海丸 十一月廿九日
木浦出帆 代理店 日鮮海運出張所 電話八四番
日本海丸 十二月九日
明石丸 十一月十六日
朝海丸 十一月廿六日
天海丸 十一月三十日
釜山出帆 代理店 電話四〇〇八番
日本海丸 十二月十日
明石丸 十一月十七日
朝海丸 十一月廿七日
天海丸 十一月三十日
浦項出帆 代理店 浦項運輸會社 電話一三番
日本海丸 十二月十一日
明石丸 十一月十八日
朝海丸 十一月廿八日

天海丸 十二月三日
内鮮沿岸地境、宮津、敦賀、伏木、船川、函館、新舞鶴、小樽、大泊
各線命令航路
北海道—北鮮線
鮮海丸 定期
北鮮、北海道行
雄基出帆 十一月廿八日 代理店 國際運輸支店 電話二七番
羅津出帆 十一月廿八日 代理店 國際運輸支店
清津出帆 十一月廿八日 代理店 國際運輸支店 電話一八番
城津出帆 十一月三十日 代理店 北鮮商船社 電話三番
西湖津出帆 十二月一日 代理店 富田商會 電話一八番
元山出帆 代理店 朝鮮運送 電話
十二月二日
内地寄港地 伏木直行、新潟
嶋谷汽船株式會社

商業登記公告

京城 春川支廳

むだのない生活は
福助の御愛用から
姿を引立る一等品

福助主要製品
各種足袋
福助靴下
青年靴
運動靴
地下足袋

福助足袋

特許　中根式索條捲揚機械
汽機汽罐高壓製品土木建築鐵工用機械工具
中根式最新型コンクリート混合機
京城岡崎町
中根機械合名會社

内科小兒科
山田醫院

横濱火災
支店　京城府

SANKYO
鎮咳祛痰
新薬
ブロチン
效果優良、
無副作用性、
應用安全、
別に大量入各種
三共株式會社

蔘茸トニク
人蔘・鹿茸・陰羊藿の製劑にして迅速しかも偉大な効果を誇る美味の蔘茸トニク！
蔘茸トニクの現れる所、他の滋養劑悉く顔色なし、これこそ理想の滋養強精劑
先づ御試用を乞ふ
男女老幼一般虚弱等に特効あり
五圓・二圓八十錢
慈善堂製薬株式會社
京城鍾路三丁目

京城日報
朝刊　朝夕刊共十二頁
編輯兼發行人　兒島吉治
印刷人　小川三之介
發行所　京城府太平通一丁目　合資會社　京城日報社

商業登記公告

……井邑支廳

花に濃淡あり〔40〕

片岡鐵兵作　一木弴畫

二つの決意（二）

大場夫婦は一泊の豫定で熱海に發つて行つた。

麗子も誘はれたのだが、何か口實を設けて家に殘つた。彼女は親たちと一緒に旅行するのを餘り好まない。しかし、今度はすこしすねて拒つた感じでもあつた。といふのは、前夜麗子は母と少々云ひ爭ひしたのだ。

麗子は口さきだけは椒本なんか何とも思つてないと云つてるが、肚の中ではその反對だ、と大場は睨んでゐるのだつた。それに大場自身、椒本に惚れ込んでゐるので婿にすることを諦めかねるのだ。そこで昨夜、自分が椒本を硏磋の料亭に誘つて麗子の話をする一方家では妻をして麗子に、椒本と是非結婚する氣持ちにたるやうにと口說かせたのである。

『お父さまもわたしも、あんたの婿さんには椒本さんが一番好いと思つてるの』

昨夜さういふ風に、母は話を切り出したのだつた。

『あたしは椒本さんなんか何とも思つてませんと、此間お父さまに申上げたのに』

『ところがお父さまは、それはあんたの口さきで、おなかの中はその反對だと思つてらつしやるんだよ』

『お父さまは時々とんでもない思ひ違ひをなさるのね』

『でも、わたしも、あんたは本當は椒本さんを嫌ひぢやないと睨んでるんだがね。何も恥かしがることはないぢやないの。あんたの一生の幸福だし、あたしたちも望んでゐることなんだからね。大威張りで、椒本さんを貰つて頂戴と仰言いよ』

さうだ、大威張りで椒本を、と要求しても好いのだ。誰にはゞかることがあらうと麗子は瞬間、拒絶しようとする自分の心を感じた。だが同時に、あの人はとうの昔に他所の人のものになつてゐるのだと思ひ出し、消え入るやうに寂しくなり、

『お母さま、あたしの良人はあたしに選ばせて頂戴』

『あんたは、あの人のこと諦つてるんでせう――晶枝とかいふ娘のことを。そんな氣の弱いことでどうするの。椒本さんだつて、あんな娘よりあんたの方が好いにきまつてゐる。わたしはね、何とかして高木の家の人たちの鼻を明かしてやりたいんだよ。椒本さんをあの人たちの手から奪つてやつたら、それだけでも氣持ちが好いおやないの』

『そんなことは厭です』

ふと、麗子は激しく云つた。

『我儘は許しませんよ』

と、母も急にきびしい口調になつて、

『わたしたちが、あんたの不爲めなことを奬めるでせうか。わたしたちの云ふ通りにして居れば、あんたに不仕合せなこと、有りつこないんだからね。わたしはどうしても、椒本さんをあなたのお婿さんに來て戴ふつもりだから、そのつもりで居て頂戴』

『厭ですわ、そんな……』

『お父さまは、今夜、椒本さんにお話しになるはずだよ。椒本さんにお話ししてしまつてから、厭だといつたつても遲い。あとから取消すなんて、そんな――お父さまの顏が潰れてしまつても、あんたは自分の我儘さへ通せば好いと思ふの？』

麗子は、その時の母ほど怖い顏をした母を見たことがなかつた。

母は今日、昨夜のことなど忘れたやうにサラリとして、熱海行きを奬めたのだつた。麗子も同じやうな平和な顏で拒つた。

父母が出發して二時間もたつただらうか。麗子は二階の自分の部屋で忙がしく立働いてゐたが、やがて階段をおりて來る彼女は、外套を着、トランクを提げて、旅立つやうな姿であつた。

ラヂオ

三十日番組（月曜日）

第一放送

午前七時一分（東）基礎英語講座（二十九）　靈谷 榮
同七時三〇分（京）朝の修養　大山邊 智學
同七時五一分（東）ラヂオ體操
同八時一〇分　今日の天氣見込（京城、釜山）
同九時（東）家庭メモ
同九時一〇分　氣象通報（釜山）
同九時一五分　氣象通報（今日の天氣見込・年週）料理獻立（生鮭のテッカ燒）
同一〇時三〇分（大）婦人の時間　十一月の婦人界　勝田進一郎
正午（東）時報・日用品値段　魚類値段
午後零時五分（城）名作物語　泉を越えて　史郎
同零時三〇分（大）國民歌謠
同零時四〇分　ニュース・
同一時一五分（城）婦人の時間　子供と玩具（釜山）
同二時（東）家庭講座　この冬の物品案内（二）呉服物
同三時一〇分（國）教師の時間　學校經營について　檜高 憲三
同三時四〇分（東）氣象通報
同四時　ニュース（氣象通報・釜山）
同六時（城）お琴
同六時二〇分（京）子供の新聞
同六時二五分（東）英語講座（六）
同六時五五分（東）カレントトピックス
同七時　ニュース、天氣見込
同七時三〇分（東）講演
同八時（山）俚謠

同八時二〇分（東）物語
同八時五〇分（名）俚謠　惠那文樂
一、安達原三段目
二、朝顏日記（大井川の場）
同九時五分（東）和洋合奏
接續曲「滿洲の想ひ出」
接續曲「彌次喜多道中記」
指揮 岡村 鄕吉
同九時三〇分（東）時報・ニュース、氣象通報、地方へのニュース、翌日の番組、翌日の番組
同一〇時　ニュース（朝鮮語釜山）

第二放送

午後零時五分　花草四百里外
同一時一五分　子供と玩具

一日のきゝ物

同六時　童謠
同六時三〇分　經濟解說
同七時三〇分　常識講座
同八時　關山戎馬外
同八時三〇分　野談
同九時　音樂

午前七時三〇分（東）朝の修養　神ながらの道に就て
同一〇時三〇分（東）歲末より初春へ
午後零時五分（東）ハーモニカ
同零時三〇分（大）
同二時（城）修養講座
同六時（東）童話劇
同六時二五分（東）青年の敎養とスポーツ
同七時三〇分（東）消火デーに際して
同八時二五分（東）引敲き
同八時五〇分（城）
同九時五分（大）

惠那文樂

これは岐阜縣惠那郡中津の人々によつて演ぜられる人形操浄るりで、この操芝居が古い山村に郷土藝術として行はれるやうになつたのは何時の頃か詳かでないが德川末期まで中津下町組と川上組との二つが存在してゐた、その下町組は淨るりを樹慈とし水神の祭禮に餘興として行はれ、川上組は人形使ひに妙を得て惠那神社祭典の時行はれた。この間多くの名人を輩出したが、明治維新に及んで次第に凋落、人形は土地の有力者によつて保管せられることゝなつた。その後町の古老達によつて腐朽のこの藝術の復活が叫ばれ、大正初年賀井馬良氏によつて修補を加へられ惠那文樂として復活したのである

一、安達原三段目　竹本 瀧玉外

俚謠 ―名古屋より― 午後八時五〇分

家庭講座

この冬の物品案内（二）呉服物　横溝 瑟惠

なさる時ですから、御參考になるやうに、絹物、木綿物、毛織物、人絹物、ステープルファイバー、メリヤス等の一切の呉服物について今年の流行品や價格の樣子、御家庭向に適用なもの、又これから先の傾向などについてお話します

和洋合奏

ミクニ和洋合奏團　指揮 岡村 鄕吉

一、接續曲「彌次喜多道中記」　島口 駒夫作曲
江戸を後に旅に出た彌次郎兵衞が途中で失敗をかさね笑はせたりホームシックにかゝつてセンチになつたりする等その滑稽的な有樣をあらはした輕い道中曲である
二、接續曲「滿洲の想ひ出」　藤井 弘也編曲
東洋情緒豐かな支那樂的小曲を接續して和洋合奏曲としたもので
三、描寫曲「漁村風景」　酒井 梅雄作曲　岡村 鄕吉編曲

敎師の時間

學校經營に就いて　檜高 憲三